



わたし、アナタ、min-na

そのすがたがうれしい

No. 4

SSH 編

2026年4月30日 市立札幌開成中等教育学校便り
〒065-8558 札幌市東区北22条東21丁目1-1
TEL 011-788-6987(代表) FAX 011-781-5629
HP <http://www.kaisei-s.sapporo-c.ed.jp/>



2025年度SSH・コズモプロジェクト研究成果報告会開催

3月18日(水)本校SSH事業の集大成であるSSH成果報告会が行われました。

第1部では、基調講演として本校卒業生であり、現在トヨタ自動車株式会社にてエンジン等の開発に携わっておられる金子真也様を講師にお迎えしました。「試行錯誤の過程には多くの失敗が伴うが、それによって新たな疑問や改良が生まれること」「誰もができないと思うことに挑戦することは大きなやりがいがあり、世界中の人々を幸せにする価値ある研究につながること」「ぜひ博士課程へ進学し、専門性を深めてほしいこと」など、大変示唆に富むお話をいただきました。

第2部では、1年間を通して実施してきた海外研修、道外研修、道内研修、PPやDPによる科学発表など、SSHの各種プロジェクトについて参加生徒による発表が行われました。特に海外研修や道外研修の発表には多くの聴講者が集まり、教室に入りきれないほどの盛況となりました。発表者は、現地での学びや驚きをそれぞれ工夫してまとめ、分かりやすく発表していました。

第3部では、基礎期(1・2年生)の探究活動である「試行錯誤」「試行錯誤Pro」の口頭発表が行われました。先輩を前に緊張した様子も見られましたが、スライドを用いて堂々と発表していました。質疑応答や自由交流の時間には、上級生から基礎期の生徒への確かな助言や励ましの言葉が送られました。全学年で探究活動に取り組んでいる本校ならではの、経験や研究に対する姿勢、必要な視点が自然に受け継がれていく様子が見られました。

第4部では、3年生・4年次生がプレコズモサイエンス、5年次生がコズモサイエンスのポスター発表を行いました。今年度は、旭丘高校、平岸高校、藻岩高校、啓成高校、日本大学札幌高校、立命館慶祥高校の6校の生徒も参加し、130を超えるテーマのポスターが並びました。さらに体育館では「未来サイエンスブース」が設けられ、本校卒業生である学生・大学院生の方々をはじめ、北海道大学、JICA北海道、ヒュージョン株式会社、トヨタ自動車株式会社に在籍されているOB・OGの方々によるブース発表がありました。卒業生の活躍に直接触れることで、生徒たちは自身の進路について具体的なイメージを持つ貴重な機会となりました。

また、TOK・知の探究の発表では、DP生を中心に「知識とは何か」「なぜ知識を深めるのか」といった答えのない概念的な問いについて、対話を通して探究する姿勢が見られました。

本校の課題研究は、基礎期では個人研究、充実期・発展期ではグループ研究へと発展し、最終的には6年次生においてコズモエッセイとして英語によるポスター発表および論文作成へとつながります。新年度から始まる探究活動にも、ぜひ意欲的に取り組んでほしいと思います。



“チ・カ・ホ” ラボ2026 ～まなび、つながる～

3月26日(木)に札幌駅前通地下広場の北3条交差点広場にて、チカホ Lab. が開催されました。昨年秋にプロジェクトを発足し、イベントの枠組みから生徒が主体となって考える取り組みとしました。普段の学習で学んだスキルを生かし、レイアウト作成や口頭発表、広報係などに分かれて協働しながら準備を進めてきました。5年次に行う探究学習の集大成でもある「コズモサイエンス」のポスター発表を中心に、3年生・4年次生が取り組んだ「ブレコズモサイエンス」やSSHの各種プロジェクトのポスター発表も行いました。市立高校との連携を深める目的で旭丘高校、平岸高校、新川高校、藻岩高校の生徒の皆さんも発表に加わっていただきました。本校とは異なる方向性の研究もあり、参加した生徒も大変参考になったのではないのでしょうか。

今年度はモニター2台を使って口頭発表も行い、多くの来場者の方に聞いていただきました。自分たちの研究に対して生の反応をもらい、発表方法の工夫の必要性に気づいた生徒もいたようです。

例年と異なり平日開催となりましたが、保護者の方をはじめ、研究でお世話になった会社の方や、本校の卒業生など多くの方に来場頂き、本校SSHの学びの成果を市民の方に伝える良い機会となりました。



厳しい審査をくぐり抜け… つくば Science Edge 2026



2026年3月27日～28日、茨城県つくば市の「つくば国際会議場」にて「つくば Science Edge 2026」に5年次生5名が参加をしました。国内25都道府県80校、海外5ヶ国23校の全477チーム、2日間で延べ約2500名がサイエンスに関する熱い議論を繰り広げました。

この5名は、5年次「コズモサイエンス」の授業において、「循環系分離モデルによる心機能分析」というテーマで1年間探究活動を続け、厳しい審査をくぐり抜けて開成代表として本大会に参加しました。代表決定後もブラッシュアップを続け、年始に臨んだ書類審査では上から2番目のグループ「サテライトプレゼンテーション」という枠に入ることができました！

発表7分、専門家からの質疑応答3分という持ち時間の中、当日まで練習を重ねた5名のチームワークが光り、質疑応答も質問の意図まで考えながら答えることができました。結果は、サテライトプレゼンテーション日本語ポスター部門で2位！（上位約2%！！）という評価を頂きました。

生徒の振り返りでは

本大会への参加を通し、たくさんの学びがありました。参加するにあたってアブストラクトやスライド、ポスターを準備し、研究内容を初めて知ってもらう人に分かりやすく伝える方法を考えました。特に、アブストラクトでは複雑な実験方法を文字情報のみで伝えられるよう、表現を工夫しました。プレゼンテーションに向けては多くの先生方と練習を重ね、いただいたアドバイスを元にデータの分析を進めたり、伝え方を改善したりすることができました。大変感謝しています。学校やホテル、会場で練習を重ね、あまり緊張せずに本番を迎えることができました。サテライトプレゼンテーションでは、大きなホールでのプレゼンテーションを経験したことで、大きな場所でも圧倒されず、練習通りに発表することが大切だと思いました。また、質疑応答では質問の意図を考えた上で適切に回答することができました。

とあり、この経験を通して事前の準備に加えて本番の気持ちの持ちようや、データの扱い方、聴衆への伝え方など、学校の外に飛び出したからこそ得た知見が数多くあったことが分かります。この経験を次年度のコズモエッセイにも活かし、コズモプロジェクトの集大成としてまとめてくれることを期待しています。

